

企画活動名	食物アレルギーの知識習得の場「子どもアレルギー教室」の開催 食物アレルギー周知の為の「食物アレルギーバンド」の作製
フリガナ	サトウ カオリ
申請者（代表者）氏名	佐藤 香理
団体名（正式名称）	団体名：すぎなみ食物アレルギーの会 申請者の役職・肩書など：代表

1. 活動結果要約

アレルギー専門医による「子ども食物アレルギー教室」の開催と小学生以上の食物アレルギー児でも無理なく身につけられる「食物アレルギーバンド」を作製し配布した。

「子ども食物アレルギー教室」では児童が食物アレルギーについて正しい知識を習得し、エピペン®の打つタイミングや打ち方の指導も行った。また、買い物シミュレーションを行い原材料名やアレルギー表示の見方まで学習し誤食防止の一助に貢献した。また、食物アレルギーのない小学生以上の児童も対象にすることで、友達への理解と思いやる心を育てるきっかけづくりの場となった。

「食物アレルギーバンド」は、小学生以上の食物アレルギーをもつ児童が躊躇することなく食物アレルギーをもつことを周知できるため、周囲の協力を得る成果が期待できた。素材上も安全性が高く24時間身に付けることが可能である。これにより自分の身を守ることができより安全に学校生活や日常生活を送れることを可能にする成果が期待できる。また災害時の活用の波及効果が期待される。

2. 活動目的

本活動の目的は就学後の食物アレルギー児が自分で身を守れるよう食物アレルギーについての正

しい知識を習得する「子ども食物アレルギー教室」を開催し、食物アレルギーをもつことを周囲に躊躇せず周知することができ緊急時の迅速な対応に有効である「食物アレルギーバンド」を作製することであった。これにより、食物アレルギー児の命を守り、安心と安全の波及効果の意義が得られたと考えている。

就学後は親の目が届かなくなることが増え、食物アレルギー児は自分で身を守る必要性が出てくる。当会の食物アレルギー講座参加者アンケートに「就学後に親の目が届かないところでの誤食やアナフィラキシー発症時の対応がとても心配だ。」という意見が数多くあった。

また、事例は少ないが食物アレルギーがきっかけでいじめにつながる可能性もある。

この4月から小学生となった私の息子は重度の食物アレルギーがあるため、小学校の給食対応ができず毎日お弁当を持ち登校している。学校給食も教育の一つであるが、クラスの友達と離れたところで皆と違うものを食べなくてはならない現状ある。

「食物アレルギーバンド」はデザイン性もあり就学後の児童でも身につけることが可能である。また「子ども食物アレルギー教室」で食物アレルギーについての正しい知識を児童自身が習得することによりさらに誤食などの事故を防ぐことが可能になると考えている。

3. 活動方法

<当初の計画通りに実施できた内容>

- ・「食物アレルギーバンド作製」

7月～8月上旬 デザイン、作製。8月中旬完成(2,000個)。

- ・「子ども食物アレルギー教室準備」

7月～8月上旬 医師に講演依頼、内容打合せ。チラシ印刷。広報は杉並区内の全小学校にチラシを配布(20,000枚)、当会のFacebook、Twitterで通知、会員50名にメルマガ配信をした。

- ・「子ども食物アレルギー教室」2019年8月19日開催。

<参加者>児童：27名/保護者・他：40名。

※講師は、申請時に記載した河北総合病院の戸張公貴医師の都合が合わず周戸優作医師に変更となった。

・「食物アレルギーバンド」 配布・設置

子どもアレルギー教室参加者及び関係者に配布(約 50 個)。

河北総合病院に設置(300 個)。

河北病院非常勤アレルギー専門医のクリニックに設置(100 個)。

昭和大学医学部小児科学講座教授 今井孝成先生に配布(100 個)。

2020 年以降、杉並区立保育園でアレルギー児に付けてもらう予定で協議中(1000 個配布予定)。

<計画通りには実施できなかった内容>

料理教室「みんなでアレルギー対応食」と食物アレルギー映画「サムライエッグ」上映会については実施できなかった。来年度以降実施できるようにしていきたい。

4. 結果及び波及効果



本活動の結果についてまず、「子ども食物アレルギー教室」は杉並区内外問わず親子で参加者があり、児童が食物アレルギーについて正しい知識を習得し、エピペン®の打つタイミングや打ち方の指導も行った。また、買い物シミュレーションを行い原材料名やアレルギー表示の見方まで学習し誤食防止の一助に貢献した。また、食物アレルギーのない小学生以上の児童も対象に

することで、友達への理解と思いやる心を育てるきっかけづくりの場となった。

つぎに「食物アレルギーバンド」については、小学生以上の食物アレルギーをもつ児童が躊躇することなく食物アレルギーをもつことを周知できるため、周囲の協力を得る成果が期待できた。また、素材上も安全性が高く 24 時間身に付けることが可能であるため災害時の活用も期待される。

本活動で所期の結果はまず、「子ども食物アレルギー教室」については所期した目標の以下 3 点成果が得られたと考えている。

- ① 児童が食物アレルギーについて正しい知識を習得する。

- ② 自分の身を自分で守りより安全に学校生活や日常生活が送れることを可能にする。
- ③ 友達への理解と思いやる心を育てるきっかづくりの場とする。

また、上記に加えエピペン®の打つタイミング、打ち方の指導や買い物シミュレーションを行い原材料名やアレルギー表示の見方まで学習し誤食防止の一助に貢献した。

つぎに「食物アレルギーバンド」についても所期の目標である食物アレルギーをもつ小学生以上の児童が躊躇することなく食物アレルギーをもつことを周知でき周囲の協力を得ることが可能であるという成果に貢献できたと考えている。これにより、緊急時の迅速な対応に有効であり食物アレルギー児の命を守り、安心と安全の波及効果の意義が得られたと考えている。

また、素材上も安全性が高く24時間身に付けることが可能であるため災害時の活用も期待される。

波及効果については、バッチだとつけてくれなかった児童がバンドにしたことで毎日学校につけてくれているという報告を得られた。また杉並区立保育園での利用を検討してもらっている。

今後、より多くの食物アレルギー児の手元に届けるため広報活動をしていく。

5. 今後の活動について

本活動の結果、さらに子ども自身が食物アレルギーについて学習する場を多くつくっていくこと、また無理なく周知できる食物アレルギーバンドの普及に努めていく活動を進めることが必要だと考えている。なぜなら現在、保護者向けには食物アレルギー知識習得の場は多く存在するが、食物アレルギーをもつ児童が学習する場はほとんどないからである。また、食物アレルギーバンドはデザインも小学生以上でも無理なく身につけられ、素材上も安全性が高く24時間身につけることが可能であるためより多くのアレルギー児に知ってもらおうよう努めていこうと考えている。さらには、災害時の活用も検討していくつもりだ。

これらの活動をしたことにより、食物アレルギーをもつ児童が食物アレルギーについての正しい知識を習得すること。それにより誤食などの事故を防ぐことがより可能になる。

最終的に自分の身を守ることができより安全に学校生活や日常生活が送れることを可能にする波及効果が期待できる。ゆえに食物アレルギー児の命を守り、安心と安全の波及効果の意義が得られ

ると考えている。

助成期間終了後の活動計画については、食物アレルギーバンドの普及、子どもアレルギー教室、料理教室「みんなでアレルギー対応食」と食物アレルギー映画「サムライエッグ」上映会開催を実行していきたいと考えている。

また申請時に記載した計画通り、会代表の佐藤香理が2020年4月～2023年3月まで都内看護専門学校で看護師の養成を受け2023年4月より看護師として会に貢献していく予定である。

以上